

科目名		テーマ		
情報メディア		情報通信メディアの歴史的変遷と現在を学び、情報社会の実態とメディアの役割を考える		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修 / 指定科目
福迫 昌之	2	2	経済情報学科	選択 / 教職課程科目 (情報)

[授業の内容・到達目標]

[授業の内容]

現在の高度情報社会において、情報通信メディアの存在は不可欠なものとなり、その拡大、多様化は、単なる技術の側面に留まらず、政治、経済を含む世界全体の変化を引き起こしている。ただし、近年の ICT (情報通信技術) は日進月歩で、その技術発達に対し社会情勢が追いかけているのが実情である。そのため、情報化による様々な社会的問題や社会変容に対する、反省や批判的な検討を行うことが困難になっている。そこで、本講義では、情報通信メディアと情報社会の関連を理解するために、通信メディアと放送メディアの社会的機能と役割を中心に、具体的事例に沿って解説する。

講義では、可能な限りアップ・トゥ・デートな動きに触れながら、情報メディアの生成と情報社会の成立の経緯を知ることによって、基本的な情報通信メディアの社会的位置付けや役割、機能を知ると同時に、新しいメディアを批判的に検討することが可能となる。

[到達目標]

現代社会の基幹的メディアである通信メディアは電話、放送メディアはテレビを中心に取り上げ、情報通信メディアと情報社会の発達の経緯を理解し、その将来像まで考えることができるようになることを目標とする。

併せて本講義を通して、将来の経済人として、現在の情報社会の背景と情報通信メディアの機能と役割を学ぶと同時に、生活者として現在のメディア状況をどう捉え、活用すべきかを考えることができるようにする。

[授業方法]

講義は板書を多用するので、毎回出席し、ノートをきちんと取ること。講義の話を聞き、自分でノートに書き取ることで、講義内容を理解し、整理することが出来る。丁寧に説明するので、ノートを取るだけでなく、その意味する内容を考えながら聞くようにすることが必要である。ビデオ等必要な教材も適宜使用する。講義内容は系統立っているので、毎回出席することが肝心となる。試験前にノートを見直し、復習すること。講義内容に関連して、事前・事後学習のために宿題として適宜レポートを課すことがある。

とくに受講者多数の要望もあり、講義に集中できる環境を維持するために、原則として 20 分以上の遅刻・移動は認めない (施錠などの措置を取ることもある)。出席は毎回とるが、出席を兼ねて時間内レポートを適宜実施する。

[成績評価の方法]

期末試験 (70 点) と時間内レポートおよび課題レポート (30 点) の合計 (100 点) で評価を行う。

試験には自筆ノートのみ持込み可なので、ノートを整理して臨むこと。

時間内レポートは 6 回実施予定。講義の進展状況により、実習による課題レポートや事前・事後レポートに換えることがある。出席点は原則として評価点数に加算しない。

[テキスト]

[参考文献]

総務省編『情報通信白書』

三野裕之『デジタルメディア概論』ムイスリ出版、2003 年。

田村紀雄・白水繁彦編著『現代地域メディア論』、2007 年。

[履修上の注意・その他]

「情報社会と倫理」と併せて受講することが望ましい。質問等は、講義後等の時間を利用して、積極的に行ってください。E-mailでも受け付けます (fukusaku@tonichi-kokusai-u.ac.jp)。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	イントロダクション 情報通信メディアの歴史について、現在の情報通信メディアの基礎となっている電話というメディアの生成から考える。
2	テーマ：情報社会の生成（通信メディア1） 電信の誕生と変遷をたどり、通信メディアの特徴および「コモンキャリア」の概念を掴む。
3	テーマ：情報社会の生成（通信メディア2） 電話の誕生と電信から電話のメディア変化について、メディア特性と社会環境との関連から考える。
4	テーマ：情報社会の生成（通信メディア3） 通信メディアの形成を米国における変遷を例に、「ユニバーサル・サービス」の観点から、その実態と問題点を考える。
5	テーマ：情報社会の生成（通信メディア4） 日本における通信メディアの形成を、明治期～電電公社～NTTへの歴史的変遷を軸に、その特徴と変容の背景について考える。
6	テーマ：情報社会の発展（放送メディア1） 米国における放送の誕生の経緯とその通信と異なる特徴について、2つの基本的問題とその解決法から理解する。
7	テーマ：情報社会の発展（放送メディア2） 日本における放送の概要と歴史的変遷を概観し、放送メディアの形成と社会変動について考える。
8	テーマ：情報社会の発展（放送メディア3） 放送法を中心に、マス・コミュニケーションとしての放送の社会的役割や特徴を、とくに通信との相違に着目して考える。
9	テーマ：情報社会の発展（放送メディア4） 米国の放送メディアや欧州の放送制度を例に、その特徴や日本との相違を明らかにし、今後の放送メディアの課題を考える。
10	テーマ：情報社会の展開（放送と通信の融合1） 「放送と通信の融合」をサービスの多様化という点から、地上デジタル放送などを例に、その理論とそれによって引き起こされる社会的問題について考える。
11	テーマ：情報社会の展開（放送と通信の融合2） 米国の「情報スーパーハイウェイ構想」を例に、情報化の進展による通信ネットワークの拡大とインターネットの生成について考える。
12	テーマ：情報社会の展開（インターネット） インターネット=コンピュータ・ネットワークの発展によって、社会にどのような影響や問題が生じてきているのか、という観点から考える。
13	テーマ：情報社会の諸相（地域情報メディア） 地域情報インフラの実態と、地域情報メディアがどのように使われているのか、さらに今後の課題などについて、身近な問題として取り上げ、考える。
14	テーマ：情報社会の展開（情報メディアとグローバル・スタンダード） 昨今経済のグローバル化とともに、各分野で課題となっているグローバル・スタンダードについて、特に情報メディアにおける重要性とその実態について考える。
15	テーマ：情報社会と情報通信メディアの今後 情報通信メディアの変遷と情報社会の成立について整理し、今後の課題と方向性について考える。